

会 議 録

会議の名称	第2回行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時	平成27年5月28日(木) 開会：午前10時 閉会：午後0時
開催場所	行田市産業文化会館 第2会議室
出席者氏名	土橋義男座長、尾澤照男委員、山崎孝子委員、羽鳥英樹委員、野本祐子委員、戸塚昌利委員、山本栄治委員、吉田岳雄委員、小池利昌委員、宮本伸子委員、伊東政信委員、立花正人委員、篠田幸一委員、中島和幸委員、島田 徹委員
欠席者氏名	島田ユミ子委員、小川雅以委員、小菅克祥委員、櫛引浩士委員
事務局	企画政策課：岩田企画政策課長、浅見政策推進幹、横倉主任 男女共同参画推進センター：岡田所長 商工観光課：磯貝産業振興推進幹 農政課：柴崎次長 子育て支援課：満井課長 保健センター：森原所長
会議内容	(1) 行田市の各種指標等について (2) 「行田創生」に係る提案について (3) その他
会議資料	○会議次第 ○委員名簿 ○行田市の各種指標について【資料1】 ○市民の意識・希望調査等概要【資料2】 ○行田創生のための全庁的な取組みについて【資料3】 ○総合戦略等の策定スケジュールについて【資料4】 ○ハローワークぎょうだ労働市場ニュース等【篠田委員提出資料】 ○行田市まち・ひと・しごと創生会議の考え方について【宮本委員提出資料】
その他必要事項	傍聴者 5名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ（土橋座長）</p> <p>3 議事</p>
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・ここで、議事に移らせていただく。ここからは、本会議の設置要綱に基づき、土橋副市長に座長としての進行をお願いしたい。
土橋座長	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに、会議の公開、非公開の取扱いについて確認させていただく。本日の議事の中では個人情報を取扱う予定がないことから、公開とさせていただく。また、会議録については、委員名を明記のうえ、要点筆記とし、市政情報コーナー及び行田市のホームページにおいて公開する。 ・本日の議事は次第にある3点である。このうち、(1)「行田市の各種指標について」まずは事務局から説明させていただき、その後に(2)「行田創生に係る提案について」として、委員の皆さんからのご提案を頂きたい。
事 務 局	<p>(1) 行田市の各種指標等について</p> <p>(資料1「行田市の各種指標について」により説明)</p>
土橋座長	<p>(2) 「行田創生」に係る提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、議題2の「行田創生に係る提案について」として、委員の皆さんにご提案をいただきたい。まず、資料を用意いただいた委員にご説明いただき、その後、他の皆さんにご発言いただきたい。
篠田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク行田管内の求人・求職の状況であるが、3月の月間有効求職者数を見ると、昨年は3,804人で今年は3,610人となる。対前年度では減少にあり、平成24年4月から36か月連続で減少している。 ・今年3月の月間有効求人数は3,591人で、前年同月比11.8ポイント上昇である。平成26年は、4～6月に一度マイナスになり、その後増加傾向で推移している。4～6月の減少は消費税増税の影響と考えている。有効求人倍率は、今年3月は0.99となっており、前年同月比0.15ポイント上昇である。埼玉県の有効求人倍率は今年3月で0.85となっている。全国は1.15倍である。単純には比較できないが、全国よりは低く、埼玉県全体よりは高いという状況だったこ

とになる。

- ・平成26年4月から平成27年3月までを見ると、有効求職者は減少傾向で推移しているが、有効求人数は上昇傾向で推移している。
- ・主要産業別、規模別一般新規求人状況の当月の特長としては、常用が前年の3月と比べて減少している。臨時・季節は増加している。パートタイムについては減少している。その中身を見ると、増加したのは、建設業、逆に減少したのは卸売業・卸小売業、医療・福祉である。
- ・一般職業紹介状況では、建設業は前年3月から今年3月の間で増減の幅が大きい。製造、運輸・郵便についてはマイナスの月もあるが、一年を通しては増加傾向と言える。卸売・小売は、12月以降は減少傾向にある。医療・福祉は、マイナスの月もあるが、一年を通しては増加傾向である。サービス業は、8月以降は増加に転じてきている。
- ・職業別の業務取扱状況では、事務的職業は、希望に対して圧倒的に求人が追い付いていない。生産工程の職業については、若干求人の方が多。専門的・技術的職業、サービスの職業、輸送・機械運転の職業、建設・採掘の職業は求職者が圧倒的に不足している。以上はハローワーク行田市の状況である。
- ・行田市のみ傾向としては、事務的職業、生産工程の職業、運搬・清掃等の職業で、求人が追い付いていない。専門的・技術的職業、サービス業、輸送・機械運転の職業で、求人に対して求職者が不足している。輸送・機械運転の職業は、介護職などのように人手不足の分野になりつつある。販売の職業は求人と求職のバランスがよい状態にある。
- ・各市の3月の有効求人倍率は、行田市は0.78倍、羽生市は0.7倍、加須市が高くて1.38倍となっている。
- ・平成26年度の行田管内で請けた新規求人に占める正社員の割合は39.9%だった。県全体では43.3%であり、県より低い状況である。
- ・平成27年3月末現在の新規学卒者の高校生の就職内定率は、前年度比で0.2ポイント増加している。新規学卒者の3年目の離職率は、平成27年3月で大学生32.4%、高校生が39.6%だった。

宮本委員

- ・このような状況を受けて、行田の創生に当たっては、ハローワークとしても、市と連携して雇用対策に取り組んでいきたい。リーマンショック以降、非正規の割合が高くなってきている。正社員の雇用に転換できるよう、昨年度から取り組んでいる。また、子育てをする女性への就職支援、高齢者の雇用対策、障害者の雇用対策、外国人の雇用対策、一度退職した人の再就職などを支援していきたい。
- ・地方創生というテーマで考えると、まち・ひと・しごとの中でも「ひと」に絞られるのではないか。検討は資料に示した3つの項目に絞って行ってはどうか。
- ・1つめは、子どもを産み育てやすいまちということで、市としても力も入れているとのことであるが、意識調査でも子育て環境についての満足度が低く、合計特殊出生率も低い。住みよさの理由を見ても、教育環境についての満足度が低い。なぜこのような結果になってしまったのか、改善することを考えた方がよい。
- ・子どもを産み育てやすいまちを考えると、そもそも結婚のサポートから始まり、安心して子どもを産めることも大事である。子育てにあたっては、核家族化の傾向の中で、子育てで困った時などに地域の中でサポートをしてもらえる、地域で育てていくということを考えてはどうか。また、乳幼児期の教育から高校までの教育のサポートから、大学や専門学校でプロフェッショナルになっていく、あるいは社会人としての第一歩をどうやって踏み出すかななどを、連続して見守ってあげる、そうすると子ども自身が、地域で育ったことを自覚し、またこの地域で育ってよかったという気持ちになり、「ここで仕事をしてみよう」と思えるようになるのではないか。
- ・そうして育った子どもが、実際に仕事をする段階では、自分自身に自信を持ち、安心して勤め暮らせるまちというのが必要になってくる。行田市は産業の誘致にも力を入れているが、足袋などを含めた大きな糸偏産業の蓄積があるのに、現在は東南アジアの方へその中心が行ってしまっているように思う。企業が立地する時には、「その地域にどんな人材があるのか」は大きな要素になる。その時に、地域の人が定着して、そこで一生懸命に仕事をするということが地域の雰囲気として育っていることで、企業も立地しやすくなる

と思う。行田市にはそういう環境の素地がある。企業立地も外から呼ぶこともあれば、中で育てることもある。行田は、そういったことがやりやすい地域だと思う。そして、その地域の産業、ものづくりの歴史を含めた地域の魅力を、自信をもってアピールできるまちになるとよい。

- ・それからもう一つ、第一次産業は日本では風前の灯であるが、行田市の特徴的な農産物があるということがある。地域の食料自給率を上げることは難しいと思うが、地産池消として、地域の人が安心安全な地域のもを食べる、あるいは安心安全な地域のもを加工する産業をつくる、地域の人が上手に売り出していく。そして、他の地域でつくられた安心安全なものも食べ、行田市でつくったものを食べてもらう、お互いで物々交換のようなこともできないか。そうすることで、農業や、農業から転換する産業が自立していくとよい。仕事を始めたい人に対しても地域でサポートをできるというのが、今回のしごと創生の一番重要な点ではないか。

- ・そうやって元気に子育てをして暮らしていくと、誰しも高齢になる。私の知る限りでは、行田市民大学では、高齢の方も皆さん楽しく学んで活躍している。これを行田市として売りにできないか。行田から東京などへ出ていった人にも帰ってきてもらう、その時に元気でいてもらわなくてはならないので、今行田にいる人たちと一緒に元気な行田づくりに関わることを第二の人生を使っただけけるとよい。今ある産業をつくってきた人も、次の世代に譲り渡していかなくてはならない。次の世代が活躍するためには、次の世代へ任せてもらって、シニアの方には、もっと自分たちが楽しめるような、生きがいの部分を大事にした方向へ集中していただけるとよい。若い人を呼び戻すことと、シニア層の生きがいづくり、両方に取り組むと、増加傾向にある空き家の有効活用とまちの活性化につながるのではないか。行田には忍城や古代蓮、古墳、足袋蔵などがあり、歴史のあるまち並みと豊かな自然がある。そこに映えるシニアが格好良いまちというのができたらよいと思う。

土橋座長

- ・詳細な資料とご説明をいただき感謝する。他の委員の方で提案があればお願いしたい。

中島委員

- ・資料1のまとめにあるように、人口減少については、自然減、社会減の両方があるということで、それぞれの対策が必要と思う。その方向として、結婚・出産・子育てについては、自然減が続く状況にブレーキをかける対策の柱と思う。
- ・雇用・産業は社会減、流出をさせない、特に進学、就職、結婚などの人生の転機に転出する人が多いということに着目して、特に雇用・産業に力を入れていこうという整理をされていると思った。まさにそういう方向でよいのではないか。
- ・特に自然減対策としては、結婚・出産・子育てすべてをサポートしていこうということだと思う。子育てについては、すでに色々取り組まれているが、これからは結婚したい人へのサポートが必要と思う。
- ・雇用・産業については、企業誘致という考え方もあるが、すでに行田市にある伝統産業、地場産業を、今の時期をチャンスと捉えて再生させていくことも重要ではないか。地元には足袋などの産業がある。そういったものを活かしていくことが重要だろう。
- ・また、行田市を含む北埼玉地域は、県内有数の米どころであることが地域の強みなので、ここに着目して活かしていけないか。たとえば加須市では昨年、農業公社を株式会社化した。このようなことで、これまでできなかったことができるようになると思う。羽生市では、民間企業と連携して農業振興を図ると聞いている。行田でも、強みである農業を使って何かできないか。
- ・また、近隣自治体との連携を視野に入れるとよい。行田の古代蓮の里、羽生のキャッセ羽生、加須の未来館が連携してスタンプラリーをして、一緒に盛り上げていこうという記事を見た。こうした自治体間の連携も魅力を対外的にアピールする方策になると思う。

尾澤委員

- ・私からは3つほど申し上げたい。1つ目は結婚支援である。行田市にはNPOの結婚相談支援センターがあるが、もっと行政が積極的に介入をして、結びついた時には一定の条件をつけて助成金を出すなどの支援をしたりする。例えば、空き家を利用して安く住まいを提供できるようにしてはどうか。
- ・2つ目は、行田市について一番問題と感ずるのは交通アクセスの悪

さである。一つの人口流入策として、ものづくり大学東側、下忍周辺を都市計画法第34条第11号区域に指定し、住宅を建てやすくしてはどうか。前谷地区が一部そうになっていると思うが、当該地区は吹上駅に近いという利点がある。若者が望んでいるのは、平日は仕事に限られた時間を有効に使うために通勤に便利なところに住み、休日はリフレッシュしたいということだと思う。

・3つ目は、市の魅力アップである。これは観光事業について、歴史と文化があるまちということで、もう少し大きな形にしていく。川越であれば小江戸と言っているように、行田は古代にPRポイントを置き、さきたま古墳と古代蓮の里の導線をつなぐなどして、公園一体を広げて外から人を呼べるようにしてはどうか。

山本委員

・ご参考までにお話しする。私は不動産業を営んでいるが、宅建業協会では、市に対して前谷地区の都市計画法第34条第11号区域の指定について要望してきたが、実現していない。行田市はJR行田駅側と秩父鉄道行田市駅側で2つに分断されているとよく言われるが、その中間の前谷地区、持田地区は市街化調整区域であるため、開発が困難である。この中間である前谷地区、持田地区について開発を認めるように要望してきたが、なかなか実現しない。今後、さらに市民の皆さんと共に要請していきたいと考えている。広大な農地、土地がまだたくさんある。農地は農地として守りながらも、新しいまちづくりをしていくべきだと思う。

・また、国土交通省による平成26年度の建築着工統計調査によると、新設住宅着工戸数は、平成25年度から26年度で、リーマンショック後の平成21年度以来、5年ぶりのマイナスである。これは消費税増税のかけこみ需要増の反動と思われる。また、持ち家は昭和40年度以降では最小の戸数であり、52年ぶりの低水準である。また、貸家は3年ぶりの減少、分譲住宅も減少となっている。しかしながら、今年3月の新設住宅着工戸数は、1年1ヶ月ぶりに増加したが、これは相続税増税に伴う節税対策で貸家の新築が増加したという背景がある。国土交通省では、2020年には総人口・世帯数ともにピークを迎え、不動産業は人口減少の影響を受けることは間違いないとしている。これからは既存住宅のリフォーム、空屋を

<p>小池委員</p>	<p>いかに活かすかというのが、我々の業界で考えなくてはならない課題と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県では、県内での中古住宅購入について、購入資金、リフォーム資金に対する補助金を出している。条件は18歳以下の子ども3人以上を育てている家庭のみだが、これは少子化対策にもなるし、空き家対策になる。行田市内では中古住宅の流通が現実的には難しくなっている。行田では、そのような対策はどうなっているか。転出者が多いのであれば、色々な面からの支援をお願いできればと思う。宅建業協会でも協議をしながら、まち、ひとつづくりに取り組みたい。 ・行田市の交通の便が悪いというのは、誰もが気づいていることと思う。行田市には高速道路のインターチェンジがない、JRも中心市街地を通っていない。これらに対して具体的なことを考えていくべきである。不動産価格や固定資産税も、例えば大宮などと比べて低いが、所得の高い人は交通の便のよいところへ行ってしまうということもあるし、一部上場企業も来ないということになってしまう。 ・現状、市の表玄関はJR行田駅になっている。朝晩の通勤時間に、行田駅行きの無料バスを走らせてはどうか。行田駅へ行くのも吹上駅へ行くのも時間は変わらない。無料バスの導入で吹上駅を利用している人が行田駅を利用するようになる。こうしたことを具体的に考えることで、この問題をクリアできるのではないか。 ・人口が流出することについても、ニートの方たちを農業人口に呼び込む施策を市が考える。米づくりでも加工業でも、担い手として来てくれる人には補助金を出す、住居を提供するなど、具体的に実現させないと、この会議の意味もない。
<p>伊東委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宮本委員の、子育て世代を応援しようという意見に賛成である。交通の便が悪いと、どこかへ通う時に早朝便、深夜便がないとしたら、通いづらい。教育費も減額もしくは無料化のようなことができないか。すべての無料化は困難でも、塾などを支援して、そこからの収益を無償化の方へあてていくなどして、子どもたちへの教育の中身の高度化や、敷居の高さの解消を図れるのではないか。また、就学前の子どもたちのために、幼保一元化の施設と老人ホームを合体し

て、子どもたちを高齢者に見てもらおうような、今までとは違う取り組みをしてはどうか。

- ・高齢者が安心して住み続けるには、安心して買い物をできる工夫が必要である。商品を載せた車を各地域に巡回させる、バスを無料化するなど、そのような工夫を考えていくとよいのではないか。
- ・移住の促進では、若者の住宅の取得のしやすさだけでなく、アパートを借りる時の支援も視野に入れてもよいのではないか。若い人が行田に来て、その人たちに行田の素晴らしいところをどのように見せていくのか、古代蓮や古墳公園、忍城などの歴史遺産がありながら、うちの学生はおそらく認識していない。市民の皆さんへ向けても発信していただき、行田はこんなよいところだということを知らせつつ、若い人も楽しめるような、たとえば荒川でのジェットスキーなどのスポーツ施設も整えられると、魅力がアップしてくるのではないかと思う。
- ・また昨今は、50～60代が地方へ戻る動きはあるが、このような人たちにとってはインターネット環境の整備が重要である。市の方でも無線LANの整備などをしてあげられるとよいのではないか。
- ・行田といえば農業がしっかりしていかななくてはならない。ブランド化や、農協の力を借りながら市民農園のようなものを運営していく。また、2つある温泉施設のうち、1つ休業している施設も復帰させて、そこで熱帯植物を育てたり、もう一方の施設がやっているフグの養殖のようなことももっと増やしていくなどすると、ちょっと変わった取り組みになってよいのではないか。
- ・中島委員、伊東委員から、市の課題として農業の話が出た。これについて、吉田委員の方から農業面の課題をお聞かせいただきたい。
- ・行田市は、米穀が盛んで、その中でも中心は米である。農協としては麦についてももっと増やしてほしいと思っている。米については現在は生産調整があるため勧めにくいですが、その他に野菜は直売所があり、また、新鮮な野菜を提供する軽トラ朝市を毎月第3日曜日に開催している。農業は衰退傾向にあり、農業者も高齢化している。できれば若い人が入ってきてほしいが、収入面では難しいのかもしれない。先ほどお話のあった市民農園は、以前はある程度やってい

土橋座長

吉田委員

伊東委員	<p>たが、最近では農家さんからの提供が受けられていない。今後また提供があれば、市とも連携してやっていきたい考えはある。農協だけではやっていけない面もあるので、市と連携していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の学校は行田で28年目になるが、開設準備の時は、農地を売ってもらい、又は貸してもらいするための交渉がとても大変だったと聞く。それからほぼ30年が経ち、ここ5～6年くらいは、無償でいいので借りてくれないか、と言ってくる方が増えてきた。その横で、外国製の大型トラクターを盛んに走らせている農家も目にするようになってきた。後継者がいない農家は、やはり厳しい状況にあるのだろう。米をつくって生計を立てている農家が多いと思うが、極めて危ないところに来ていると感じる。市民農園で全て解決できるわけではないが、そういった誘致はひとつの手だとは思っている。
土橋座長 山崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の意見がまだないが。男女共同参画の点からいかがか。 ・行田では、女性も子育て後の再就職について頑張っていると思うが、働きやすい環境を市でバックアップしてもらえるとよい。学童保育も整ってはいるが、ただ子どもを見ているだけではなく、そこに塾の要素をプラスして、学力をつけられるようにしていただくと、母親も安心して仕事ができるのではないかと。 ・農業については、これからの農業は大型化の中で、会社のような雇用の形態を取り入れて、産業の一つとして行っていく時代になっていくのではないかと。
土橋座長	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様のご意見に感謝する。それでは、3. その他として、現在進めている取組や調査の内容について、事務局に説明をお願いします。
事務局	<p>(3) その他 (資料2「市民の意識・希望調査等概要」、資料3「行田創生のための全庁的な取組みについて」及び資料4「総合戦略等の策定スケジュールについて」により説明)</p>
土橋座長 野本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまの説明について、何かご意見やご質問はあるか。 ・「若い人の希望」を聞いていただき、そこから色々と考えていくのがよい。ある程度の年配者は、持ち家があるから行田に住んでいるという人も多いだろうが、若い人はどこかによいところがあれば出て行ってしまふ。若い人の意見も聞いて進めて行ってほしい。

<p>土橋座長</p> <p>司 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような視点は取り入れていきたい。 ・以上で本日の議事はすべて終了となる。これをもって、議長の職を解かさせていただく。 ・「まち・ひと・しごと創生」という観点から貴重なご意見を多数の委員からいただき、感謝申し上げます。次回の日程については、8月上旬頃を予定している。調整の上、決定次第通知をさせていただく。次回の会議ではアンケート調査結果の速報をお知らせするとともに、皆様からさらなるご提案があれば、ぜひお願いしたい。以上をもって、第2回行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会する。 <p style="text-align: center;">＜ 閉 会 ＞</p>
------------------------	---